メディカル・プロフェッショナリズムⅣ

科目責任者　種　市　　洋
学年・学期　４学年・前期

Ⅰ．前　　文

医学教育モデル・コア・カリキュラムでは，医師として求められる基本的な資質・能力の最上位としてプロフェッショナリズムがあげられています。プロフェッショナリズムとは，人の命に深く関わり健康を守るという医師の職責を十分に自覚し，多様性・人間性を尊重し，利他的な態度で診療にあたりながら，医師としての道を究めていくこととされ，そのためには社会から信頼され，思いやりを持って他者に接する態度，医師に相応しい教養や倫理観等を身につける必要があります。そのために獨協医科大学のプロフェッショナリズム教育プログラムとして順次性を持った６年一貫の「メディカル・プロフェッショナリズム（D-Mep)」を開設しました。

D-MepⅣでは，D-MepⅠおよびⅡで学修したベーシックおよびアドバンス・コミュニケーションスキルをもとに医療現場に特化したコミュニケーションスキルを習得します。他に，同意書の取得の意味や医療のDX化，医療経営と金融について考えます。また，将来どの様な医師になりたいのか，今後のキャリア形成について十分に考え，言語化，各人の目標を明確化します。

Ⅱ．担当教員

＜医療のDigital transformation ＞

教学IRセンター	准教授	山　岸　秀　嗣

＜医療経営と金融＞

足利銀行

＜メディカル・コミュニケーションスキル＞

心臓・血管内科／循環器内科	主任教授	豊　田　　茂

＜医の倫理＞

教育支援センター／研究倫理支援室	講師	上　杉　奈　々

＜医師のキャリア形成＞

医学部長／整形外科学	主任教授	種　市　　洋
千葉大学医学部附属病院	特任教授	吉　村　健　佑
浜松医科大学/法学	教授	大　磯　義一郎

＜良き医師となるには＞

医学部長／整形外科学	主任教授	種　市　　洋

＜コーディネーター＞

教学ＩＲセンター	准教授	山　岸　秀　嗣

Ⅲ．一般学習目標

（１）プロフェッショナリズムの視点から，医学生に求められる態度について学ぶ。
（２）コミュニケーションの視点から，人としての信頼や思いやりを形成する行動の基礎について学ぶ。
（３）医師のキャリア形成について理解する。
（４）同意書の取得目的について理解する。
（５）将来の医師像について考え，言語化できる。
（６）医療のDigital transformation（DX）の利点と問題点を理解する。
（７）医療経営と金融との関係について説明することができる。

Ⅳ．学修の到達目標

（1）社会から信頼を得る上で必要なことを常に考え行動することができる。

（2）品格と礼儀をもって，他者を適切に理解し，思いやりをもって接することができる。

（3）他者のプライバシー，苦痛等に配慮し，非言語コミュニケーションを含めた適切な コミュニケーションスキルにより良好な人間関係を築くことができる。

（4）医療における倫理の重要性を理解し，同意書の取得ができる。

（5）医師としての将来像を説明する事ができる。

（6）医療のDigital transformation（DX）の利点と問題点について説明することができる。

（7）医療経済についての概念を理解し，金融機関との検討を行うことができる。

Ⅴ．授業計画及び方法　＊（　）内はアクティブラーニングの番号と種類

（1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ，知識確認等の要素を教室で行う授業形態。）
2：ディスカッション，ディベート　3：グループワーク　4：実習，フィールドワーク　5：プレゼンテーション
6：その他）

回数	月	日	曜日	時限	講　義　テ　ー　マ	担　当　者	アクティブラーニング
1	5	27	月	1	医療のDigital transformation（DX）	山　岸　秀　嗣	3
2		27	月	2	医療経営と金融①	外部講師（足利銀行）	3
3		27	月	3	医療経営と金融②	外部講師（足利銀行）	3
4		28	火	1	メディカル・コミニュケーションスキル①	豊　田　　茂	3
5		28	火	2	メディカル・コミニュケーションスキル②	豊　田　　茂	3
6		28	火	3	メディカル・コミニュケーションスキル③	豊　田　　茂	3
7		29	水	1	医の倫理①	上　杉　奈　々	3
8		29	水	2	医の倫理②	上　杉　奈　々	3
9		29	水	3	医の倫理③	上　杉　奈　々	3
10		30	木	1	医師のキャリア形成①	種市　洋 吉村　健佑 大磯　義一郎	3
11		30	木	2	医師のキャリア形成②	種市　洋 吉村　健佑 大磯　義一郎	3
12		30	木	3	医師のキャリア形成③	種市　洋 吉村　健佑 大磯　義一郎	3
13		30	木	4	良き医師となるには①	種　市　　洋	3
14		30	木	5	良き医師となるには①	種　市　　洋	3
15		30	木	6	良き医師となるには①	種　市　　洋	3

Ⅵ．評価基準（成績評価の方法・基準）

各回のレポート評価とし，合計点数を100点とし，60点以上を合格とする。

【特筆すべきアンプロフェッショナルな態度への対応】

D-Mep Ⅰに準ずる。

Ⅶ. 教科書・参考図書・ＡＶ資料

大生 定義「プロフェッショナリズム総論」，京府医大誌 120（６）,pp395-402, 2011

Ⅷ. 質問への対応方法

担当者への質問は，LMSやメールを使用して行う。

Ⅸ. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

＊◎：最も重点を置くDP　　○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料，情報通信技術〈ICT〉などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	

Ⅹ．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各基盤科目のフィードバックの方法については，講義時に担当教員より説明する。

単位認定要件となる「良き医師となるには」のレポート課題については，学生自身の学修と成長の記録としてe-ポートフォリオに記録するので，卒業時まで各自で活用されたい。

Ⅺ．求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

事前学習：シラバスを参考に講義の要点を確認すること。（所要時間の目安30分）

事後学習：講義の内容をまとめること。（所要時間の目安 30 分）

なお，各基盤科目の詳細な事前学修・事後学修については，各担当教員により説明する。

Ⅻ．コアカリ記号・番号

PR: プロフェッショナリズム

PR-01-01: 誠実さ

PR-01-02: 省察

PR-02-01: 思いやり

PR-02-02: 他者理解と自己理解

PR-02-03: 品格・礼儀

PR-03-01: 教養